

木質資源の安定供給体制整備に向けた広域的な取組

上川総合振興局南部森林室普及課 牧野 忍

取組の背景・目的

- ◎愛別町「あいべつ協和温泉」の施設内に導入したバイオマスボイラーの燃焼に必要な木質燃料チップの需要量は、年間1,400m³で生産施設を持たないことから、遠隔地から購入している状況。
- ◎一方、上川・愛別地域の森林整備から産出される林地残材可能量は年間870m³ (試算)で、バイオマス利用者の求める量に対応できない。
- ◎当地域の一般民有林では、現状のバイオマス需要に見合った供給量の確保は困難。道有林や国有林に対して、木質資源の提供に向けて関係者との調整が必要。



上川町・愛別町合同による木質資源の安定供給体制の整備

取組の内容

市町村森林整備計画実行管理 推進チーム合同会議

- 協和温泉の燃料供給を進めるための体制整備を検討。
- 木質バイオマスの今後の利用見込み量について情報提供。
- 各機関からの木質バイオマス供給に対する意見交換。



林地残材による低コスト試験

- 上川町森林組合が、林地残材による集材・運搬コスト計算と、チップ製造機による製造技術試験を実施。



成果

- 上川町・愛別町2町の市町村森林整備計画書に、木質資源の安定供給等、取組趣旨を文面へ記載することによって、資源供給側からの連携や一般民有林、道有林、国有林関係者の合意が図られた。



今後の展開

- 「あいべつ協和温泉」ボイラー用木質燃料チップの供給。
- さらに、家畜敷料等を含め、2万トンの生産を目指す。
- 林地残材を収集・運搬するための路網施設の共同利用。